

そういう組合員同士のもめごとや裁判は、私はあってしかるべきだと思うんです、あって当たり前のことだと思う。そしたら、そういうことに対して糸魚川の市長が社長だとしたら、それを中間に入れて、やはりまとめていくべき事柄ではなかったのかなと私は思うんです。非常にそれが残念。

公平・公正であるべき立場の市長と、営利を追求する社長との矛盾した立場、また、監督責任者である市長と、監督される第三セクターの社長、相反する矛盾した立場を是正するように求めてきた議会議決、これ今、答えられましたけども、今日までそれを無視して、今日まで改善することなく、このようなスキャンダラスな問題を起こした責任は、極めて大であると言わざるを得ません。

また、裁判の過程で明らかになった営業妨害や排斥運動など村八分的集団いじめであり、営業権と基本的人権を脅かしたとも言えます。このような非人道的な行いは、単に社長としての監督責任の欠落と言えます。市長としての立場、社長としての立場を鑑みれば、中立・公平に問題の解決を図るべきであったはずが率先して告訴し、裁判の泥沼化を招く結果を招いたという責任も、私は極めて大きいと言わざるを得ません。

大分厳しいことも申し上げましたけれども、こうしたことを１つ１つ解決しながら、また改善し、新たな時代の第三セクターのあり方、それからいろんなマニュアルの中にも書かれているとおり市民の信頼を損なうことなく、やっぱり行政の長として私は確かな運営をしていっていただきたい。これを強く申し上げて、私の一般質問は終わります。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、古畑議員の質問が終わりました。

ここで１３時まで昼食時限のため休憩いたします。

+

午前 １１時 ５５分 休憩

午後 １時 ００分 開議

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を開きます。

次に、渡辺重雄議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。〔３番 渡辺重雄君登壇〕

○３番（渡辺重雄君）

清生クラブの渡辺重雄でございます。

それでは、事前に通告をいたしました通告書に基づきまして、１回目の質問をさせていただきます。

今回は、地方創生に向けた市の取り組みについてであります。

昨年１１月２１日「まち・ひと・しごと創生法案」と「地方再生法の一部を改正する法律案」の地方創生関連２法案が可決成立し、政府は、これまでの単なる地方分権レベルでなく、人口減少克

服と地方創生に取り組むこととしております。

特に、「まち・ひと・しごと創生法案」においては、50年後に1億人程度の人口維持を目指す「長期ビジョン」と、人口減少を克服し将来にわたって活力ある日本社会を実現するための5か年の計画を示す「総合戦略」の取りまとめが行われており、全国の県や市でも地方版の本格的な取り組みが始まっております。

糸魚川市においては、今までも人口対策、地域振興策、市長公約などにより、糸魚川創生の数々の取り組みがなされており、その成果に期待をしているところですが、残念ながら努力以上の速度で厳しい局面が表れており、その局面打開のためにも今回の国の政策に大いに期待をいたしております。

今回の国の創生法においては、地方の特性を踏まえた人口ビジョンと総合戦略の策定をはじめ、これらに基づくしっかりした取り組みを行う地方には、新たな交付金制度の創設による積極的な財政支援がなされるということもあり、糸魚川市の人口ビジョンと総合戦略の策定に期待をしているところです。

このように、これから始まる地方創生は、内容のほとんどが協働、連携といった市民とのかかわりが大きな鍵を握ることから、並行して、住民参加や協働のあり方を再点検する必要と人づくりが重要であります。

それには、情報の共有をはじめ人材育成に力を入れる必要があり、今までの生涯学習の各種講座などを整理して、市民や産官学が連携しやすい総合型の市民大学制度の導入も必要と考えます。

以上の観点から、地方創生である、糸魚川創生に向けた市の取り組みについて、次の点について伺います。

(1) まち・ひと・しごと創生法への対応についてであります。

「まちの創生」「ひとの創生」「しごとの創生」を行うための人口ビジョン策定と総合戦略策定及び推進にあたり、創生本部の設置や関連する各種の組織の整備が必要と考えるが、体制をどのように構築し、どのような手法で進めていくのか伺います。また、この制度の活用についてはどのように考えているのか伺います。

(2) 人口対策、地域振興策、市長公約に関する成果と今後の取り組みについてであります。

人口減少対策プラン、地域づくりビジョン、地域づくりプラン、市長の約束など、数多くの地方創生につながる政策を講じてきているが、その成果がなかなか見えないのはなぜか、その原因に対して的確な政策になっているのか伺います。また、今後の取り組みとしての戦略戦術はどのように考えているのか伺います。

(3) 市民や産官学による連携、協働と市民大学制度の導入提案についてであります。

地方創生実現には、市民や産官学との連携、協働による取り組みが重要と考えており、住民参加や協働のあり方を再点検すると同時に、地方創生を動かす基本は人であり、人づくり、教育であることから、「いつでも・どこでも・誰でも」自ら学ぶことができる生涯学習の仕組みとして、地域づくりなども含めた総合型の「市民大学制度」の導入を図り、市民全体の地方創生につなげてほしいと考えるがいかがか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

渡辺議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、庁内の推進体制として、私を本部長とする糸魚川市創生推進本部を設置し、策定を進めてまいります。あわせて、関係行政機関や関係団体による組織を設置し、より一層、市民の参画と協働の機会を確保してまいります。

2 点目につきましては、これまでの取り組みについては、市民と行政の共通認識が十分でなかったと考えられることから、これから策定する総合戦略においては、わかりやすい目標設定や数値目標を定め、成果を検証できる仕組みとなるよう考えてまいります。

3 点目につきましては、住民協働と地域づくりの基本は人づくりであると考えております。これまで公民館活動を通じたさまざまな分野の講座を開催し、学習機会を提供してまいりましたが、今後は地域づくりを担う人材の育成が必要であり、そのための学びの場、学びの方法などについて総合戦略策定の中で検討してまいりたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3 番（渡辺重雄君）

ありがとうございました。

それでは2 回目の質問に入りますが、まず、1 点目のまち・ひと・しごと創生法への対応についてであります。

きのうの新聞紙上に、全国の首長アンケートの結果が載っておったわけですが、今回の地方創生総合戦略、これに関しては87%の首長が評価をしているものの、大半が留保つきというふうなことで、従来の施策の寄せ集めという指摘も目立っておるようなんですけども、この点、市長の受け止め方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は我々が今、糸魚川市が進めてきた1つの方向とかなり似てるところがあるのではないかなと思っております。みずからが考え、みずからが判断をし、みずからが行動することが、今、求められておられるんだろうと思ってるわけでありまして、我々もそういった形で進めていくことが必要だと思っていますので、私は今まで進めてきた我々の施策を、さらにもう一度、再検討しながら、そういったこととあわせながら進めていきたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

また、このアンケートの中で、総合戦略を実行する財源として新型交付金、これは平成28年度につくるといふうにされているんですが、県内の67%、20の自治体が期待をしておるといふうに言われておるんですが、この点についてはいかがでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

今回の地方創生にかかる国の交付金制度については、これまでの国の縦割りの中では、どうしても補助金というようなイメージが強かったわけでありまして、そういった意味では全国市長会、あるいはまた知事会等の関係でも要望が出されておるとおり使いやすいお金にしてほしいと、支援してほしいという要望が、交付金という形になったんだろうというふうに受けとめておりまして、我々地方都市にとっても、こういった交付金が、とても使いやすい財源になるのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

そうですね。私も調べてみたんですが、この新型交付金、これは自治体を一律に扱わず、総合戦略を見て熱意があるところに厚く交付する。その審査は議員の口ききのような申請を排除し、透明性のある仕組みにする。独創性、将来の発展性、持続性などが審査の基準になるだろう。金額の規模は、まだわからないというような解説があったんですが、今回の地方創生ですけども、予算に見合う成果が出たかどうかを、これ検証するというふうなのが特徴的のようですが、いわゆる知恵の出どころではないかなというふうに思うんですが、問題は体制ですね。

先ほど市長からも答弁ありましたが、体制についてはどのように具体的に考えているのか、大丈夫かどうか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

庁内のまず体制としましては、市長を本部長とする糸魚川創生推進本部なるものをつくりまして、やはり広く住民の声を拾うと、聞いていくという姿勢の中では、これまでの産官学という分野に加えまして、今回、新たに国は金融と労政という分野も入れて、さらには市民も入れて、より広い組織をして広く意見を吸い上げるようにというのが、今回、国のほうでも示されている内容であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから国の創生本部の幹部のコメントでは、公共事業ではこれまで効果が出なかったので、公共事業に頼る考えは捨てないといけないというふうなコメントがあるんですね。これに対して政党の会合では、まだまだインフラ整備も大事だと、公共事業を求める意見がかなり出ているという報道もあるんですが、実際にこの政策パッケージの中身、これはその中身を見ると、どんな動きが見えるでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

原則、ソフト事業というのが前面に出ております。ただ、ハードを認めないというわけではなくて、そのソフトを実行することによって成果が見込めるような施設については、例外的にハード整備についても認めるというのが、今、国の考え方であります。

ただ具体的には、それが事例としてまだ示されておりませんので、何とも言えない部分もありますけれども、我々とすればソフト中心という考え方で、進めていきたいというふうには思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

私は昨年の12月の議会で、この人口動態の質問の中で、糸魚川市の人口減少の主な要因、若年層の大都市圏への流出、それがさらに自然減も、もたらしているということを確認をさせていただいたわけですが、言いかえれば若年層の大都市圏への移動、雇用の機会を求めて引き起こされてるわけでありまして、今回、国はこれを阻止するというふうなことを言ってるんですが、このところ糸魚川市の企業誘致を含めて現在の雇用、労働環境、これをお聞きをしたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

現在の企業誘致と雇用、それから所得の環境というふうなご質問だと思っておりますけれども、今現在、市内にあります空き工場、それから企業建設にお使いいただけるような土地についての情報発信に努めておるところでございます。

雇用環境と所得の面につきましては、ここ数年、有効求人倍率は非常にいいわけでございますけれども、その上昇と同じように所得環境が上がってくるかというと、それは少し疑問のところもあるというふうに認識しとるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

今回の地方創生の地域の施策としては、雇用の確保を最重要視してるという実態が非常に多いということなんですけども、三菱総合研究所では、地方では既に仕事が残っていて、人を地方に移すには魅力のある仕事をふやせるかどうか鍵となるというふうな指摘もしておるわけなんですけど、この点、少し掘り下げた質問なんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

地方に魅力のある企業というふうなご質問だと思っておりますけども、本市におきましては、やはり新幹線の開業、それからジオパーク、それからこの地方創生という、この流れをしっかりと糸魚川流に受けとめていく必要があるんだろうなと思っております。

それにはやはり先ほど企画財政課長も答弁申し上げましたけども、産官学、金融、労政、やっぱり全ての人たちとの知恵の出し合いでいろんな戦略を考え、誘致していく方向性が必要なんではないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

この点で国は働く場の創出ということでは、都市部の企業が地方に移ることを促す税制優遇、それから国の研究機関の地方移転、これを打ち出しているわけですね。

それから人材不足の地方の中小企業には、都市部の大企業で事業の企画担当に当たった30から50歳代程度の人材を紹介する、プロフェッショナル人材センターも新設するというふうにご言っておるんですが、これらの動きに対して糸魚川市でこれから考えられる対応というのはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今回、国が示しました政策パッケージの趣旨につきましては、それぞれ国の関係省庁が一体となって準備された施策を構築されてきておられるわけでございます。

その中で今のご質問にありました都市企業の地方移転の場合の税制優遇につきましては、法人本社を地方にもってきた場合の法人税の減税、それから地方で雇用した場合に、1人当たり幾らというふうな減税の内容はお聞きしておるところでございます。

それから人材の面につきましては、今、渡辺議員からお話がありましたように、プロフェッショナル人材センターということで、首都圏には30代から50代で、いろんな特殊な専門、または技

術をお持ちの方がおられるわけでございますので、そういう方をいかに地方へもってきて、活用するかというふうなことでの人材センターだというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

今、課長のお答えのとおりだと思うんですが、ほかにこの中に先ほど申し上げた国の研究機関の地方移転、これについては、私、この糸魚川市では海と山、また川もありますし、またいろんな研究の素材が近くにたくさんあるわけですから、この国の機関の誘致、こういう点についてはいかがでしょうか、考えたことございますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

現在のところ国の機関の誘致について、具体的に考えておるところはございませんけれども、今後の検討の中で当市の特色を生かして、国の研究機関等で糸魚川らしさを結びつけられるものがあるかどうか、これらについては研究していく必要があると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

このことでは石破担当大臣は、2月中にも移転候補の機関を公表して、誘致する自治体を募るというふうな言い方をしとるんですね。したがって、かなり具体的に出てくる可能性、もう出てるのかわかりませんが、その辺の情報というのは、まだ正確にはつかんでおりませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

きょう現在の段階では、まだ私のほうでは情報として把握をしておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

補足しますと、その中で平成27年度に移転先を決めて、平成28年度から具体化するというようなコメントですので、ぜひその辺を先取りして、情報をキャッチしたらすぐに対応できるように、検討しておいていただければなというふうに思います。

それから地方への移住者をふやす施策ということですが、移住先の仕事や生活情報を提供す

+

る全国移住促進センターの開設、それから個人の空き家を使った地方での移住体験などを進めるといことなんですが、いずれも全国一斉に用意ドンで始まりますので、地域間競争が激化すると思うんですが、どれだけこの糸魚川らしさ、魅力を打ち出せるかということが非常に大きな鍵を握ってるわけなんですが、これに対する対応の仕方、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

渡辺議員の言われるとおり国のほうも今、地方創生の中で、また新たなセンターを創設していくという考え方が示されています。しかしながら、今現在は移住交流機構等の国の機関もあったり、あるいはまた都道府県単位で移住の相談センター等も開設する中で、今、取り組んできておることでもありますので、すぐにそのセンターが100%機能していくというふうには、ちょっと難しい面もあると思いますけれども、いずれにしても、方向は同じ方向を向いておるわけでもありますので、これまで以上にやはり糸魚川の部分を、どういう形でそういったところに協力を求めていくかということが、この地方創生の中では、当然、考えなければならないことだろうというふうに捉えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから人口減に関して、3年前に妙高市の入村市長、これは将来の人口減への対応ということで、大上越圏構想を打ち出したことがあったんですね。このときは上越と妙高の合併でなく、今後の合併はもっと大きくという考えだというふうなんですが、米田市長はこの合併から10年たった今、今後の合併に関しては、どんな考えを持っていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私はちょっと今のお考えと違う考え方でありまして、やはり糸魚川は上越と、また西のほうの富山のほうに比べても同じなんです、また南もそうなんです、なかなか近いところに大きな都市がない中において、合併をいたしましても我々の地域は非常にどっちへ行っても何か疎外感を持つ部分が生まれるんじゃないかなということを考えますと、やはり同じような地形、同じような環境の中で、しっかりとやはりまちづくりはしていくべきと捉えております。そうしますと我々はどこにも属さないでやはり今までのとおり、もうしばらくは頑張っていかなきゃいけないと私は思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○ 3 番（渡辺重雄君）

それから国の地方創生人材支援制度ですね、この中で市町村の幹部として首長を補佐したり、地域活性化を支援したりする中央省庁の若手中堅職員、それから大学とかシンクタンクの研究者を市町村に派遣することを計画してる。期間は2年程度、いわゆる地方創生の助っ人ですよね。これからは内を外に開いていくというふうなことが必要になってくるわけですから、こういった外部人材の活用というのは、非常に効果的かなというふうにも思うんですが、私としては、ぜひこの計画に乗っていただきたい、実現をしていただきたいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

前向きに捉えていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○ 3 番（渡辺重雄君）

それから同じくソフト的なもので人的支援のもう一つ、国が相談窓口として地方コンシェルジュ制度をつくったわけですが、こちらの活用については、どんなふうに考えておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどの課長の答弁もあったように、いろんな施策なり制度を講じてくると思っとるわけですが、どれについても我々の地域の活性化に向けて、いいものは積極的にその対応をさせてもらいたいと思っております。

先ほどの議員のご提案のように、我々は本当にいろいろなことをやっても、なかなか成果が出てないのが実情でございますので、どれだけでもやはり成果に結びつけていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○ 3 番（渡辺重雄君）

それでは2番目の人口対策、地域振興策、市長公約に関する成果と今後の取り組みでございますが、これも国の話なんですけども、安倍首相が石破地方創生大臣に、これまでの地域活性化関係の政策を検証するよう指示をしたと。各省庁からは、失敗事例が1つも上がってこなかったということなんですけど、糸魚川市で同じことを指示した場合、どのような対応が予想されますか、市長、ど

うですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常にこの問題、長きにわたっておる問題でありまして、いろいろと研究や、また取り組みをしてきた経過があります。そういう中においても、なかなか難しい部分でございますので、当然、いろんな施策に対して、これがだめだったら、これというような形ではなくて、今、ご指摘いただいたようにやはり検証しながら、どうすればいいのかという形にもっていかなくてはいけないんだろうと思っておりますが、なかなか短期間では成果が出ない部分もあるのかもしれませんが、その辺をあまりにも、ころころ変えてもいけない部分はありますけども、また逆に、なかなかだめなものをやっても、だめだということもあるのかもしれませんが。そういったところは、やはりじっくり検証しながら取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

そうですね。失敗は失敗でやったからわかるわけでありまして、一定の評価ができるというふうに私も思うわけですね。ただ、失敗の原因ですね、いわゆる基礎的なデータとか分析、これはしっかり得たかどうかというふうなことです。

全国的にこの人口減少対策、それから地域振興策は、うまくいかないのが当たり前というような状況になっとるもんですから、あまり責任を感じてないところがあるんじゃないかと思うんですが、最近、成功事例が非常に多く、ここへきて出てきております。私はまあでもいいと思うんですが、失敗の原因を確かめていただいて、さらなる政策に高めていただきたいというふうに思うんですが、もう一度いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

渡辺議員のご質問の中心にある、私はやっぱり人づくりじゃなかろうかなと思っております。どんな施策もやっぱり人が、しっかりそこにリーダー的な存在が生じなかったら、なかなかうまくいかないのが実情じゃなかろうかなと思っておりますので、そういった人材育成というのも本当に大事だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○ 3 番（渡辺重雄君）

例えばの話ですけども、この人口減少対策の各施策ですね、市民の皆さんが困っているのは何かというふうなことです。もう一度、見直していただいて、本当の原因を確かめると、この必要があるんじゃないかなと思うんですね。原因の根っこを押さえないで、効果が上がらないとか、あるいは利用がない。特に、利用がないというようなことを言われることがあるんですが、やっぱり市民の本音を聞き出して、制度とか事業にきちっと反映させるというふうなことをもっともっと、やっぱりそれに力を入れていただきたいというふうに思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

過去でいきますと総合計画の後期基本計画をつくるときに、市民アンケート等をとっております。その中でも市民の皆さんからの状況、結果を見ますと雇用環境、いわゆる産業の育成、あるいは医療体制という市民の強い要望があります。その後におきまして、市の取り組みも実施しておりますけれども、まだまだこの点についての市民の皆さんの要望、期待が大きいのというふうに思っております。

これらについては、いろんな取り組みの中で事業を実施しておりますけれども、これを1つやれば、うまくいくというところはありませんので、いろいろ事業、それから施策を組み合わせながら試行錯誤で、先ほど来、話がありましたように、効果があるものを見出してやっていくという取り組みを続けていく必要があるというふうに思っておりますし、今後も創意工夫しながら取り組みを続けていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○ 3 番（渡辺重雄君）

先ほどの雇用の関係と関連するんですが、1例ですけども、平成26年度の学校基本調査、これによると大学の進学率は51%で、その多くは知識集約型の職種を希望しているけども、地元でその職種がないために、どうしても就職は東京をはじめとする大都市に集中する。これに対応するためには、地方であっても知識集約型の職種の誘致が必要になるということなんですが、この原因と対策といった点で、その辺のお考えというのは具体的に持っているのかどうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

若者の雇用ということからしますと、若者の皆さんが思い描かれているような、そういう今ご提案のような知識を集約するような企業というのが必要になってくるだろうと思っておりますし、また、ITを利用して地方でもできる関連企業があるわけですので、そういうものを含めて考えてい

く必要があるかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

今、課長がおっしゃるとおり、前に徳島県の神山町、空き家を使ったＩＴサテライトオフィス、それから塩尻市ですね、こちらは起業、いわゆる仕事を起こした当初、格安で借りられるレンタルオフィス、こういうのを見てきておるんですが、新幹線が開通すれば糸魚川市は立地条件としては、それらの都市よりももっと最適な場所になるわけですので、この知識集約型の具体的な施策、これも本当に講ずれば、非常に若者が対応してくれる可能性が大きいんですけども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今、ご提案のような方向も、十分に検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから最近の調査ですが、関東圏以外の出身者の約５割が、実際に東京から移住する予定、または移住を検討したいと思っているというふうなことです。ですから今までのような東京への一方的な人口の流出、これ変えられる可能性というのは十分にあるんじゃないかと。そのために我々は１つのそういう気づき、それから情報収集、それから現地の訪問交流、伊藤議員からもありました２地域居住、あるいは移住・定住といったこのプロセス、これをやっぱりもっともつきめ細かにして、受け入れ体制の施策を講ずる必要があると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

働く場ということで議員のほうからもお話がありますように、まさにそのとおりでありまして、アンケート結果では確かに、今、渡辺議員の言われる４割から５割の方が、地方で暮らしたいとか、暮らしてもいいというふうに回答されています。

でも、その裏には、なんだけれども、例えば働く場がないと困る、やはり一定の利便性が確保されないと困る、そういうふうなところであれば行きたいというふうなことも言っておられます。よって、住まいと働く場というのは別々に対応ということではなくて、やはりワンセットで受け入れが可能なような我々の体制をつくっていく必要があるというふうに思っておりますので、これについても現行の中でもやってはおりますけれども、今のこの新しい地方創生の制度の中で、そこはしっかりとワンストップ窓口というような形で、取り組みをしていく必要があるというふうに思

っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから地方創生につながる糸魚川市における地域づくりプランですね、こちらの作成したところ、作成中、さらに作成していないところがあるんですが、市としては、このプランの策定は地区住民の判断で、いつまでに策定しなければならないというものではないというふうなことになるんですが、正直なところ市として、全地域に必要と考えているのかどうか、この点について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私は全地域に取り組んでいただきたいと思います。しかし、いろんな考え方、また手法があるだろうと思っとなるわけでございますので、それは各地域、地域で捉えていただければ結構だと思いますし、また、期日につきましてもそんなに、じゃあいつまでにみんなせえという、やはり画一的なことではいけないだろうと思ってますので、その地域に見合ったタイムスケジュールの中でまとめていただければ、ありがたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

優しいようで悪く言うと、そんなに期待してないようにも聞こえてしまうんですが、問題は、この地域づくりプランをつくらない場合、その場合は、その地区はどうなるんだという声もあるんですけど、ちょっと開き直ったようなお尋ねになるんですけども、その地区の地域づくりをどういうふうにするんだということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

先ほどのお答えの中でも少し話を触れさせていただきましたが、やはり地域といいましょうか、まちづくり、地域づくりは、やはり人だと思っております。その人材がなかなか育たないと、何をやってもだめだろうと思っております。幾らいいプランつくっても、そこでのやはり人材がないと、それが達成できない部分がございますので、その辺を上手にまとめ上げていくことが大事であるわけでございますので、そういった働きかけはいたしますが、しかし、どうしても今、要するにやら

+

なくちゃいけないものも課題がありながら、そういう人と人とのまとめをやっていっていただくのが、一番私はいいのだろうと思っております。実際のプランより、形のプランではなくて、やはり中身のあるものにもっていただきたい。そして、そこにはちゃんと人材も中に存在するというものに、もっていただきたいわけでございますので。

ややもしますと、今までの中で見ておりますと急ぎ過ぎて、形だけをつくってしまうというのがあって、なかなかそれが絵に描いた餅に終わって、実際のものにつなげてないというのが、長い間の1つの教訓だろうと思っておりますので、そういったところを今回やらさせていただいて、やはり先に取り組んでうまくいったところを見れば、我々もやらないかんだろうというところも出てくると思つとるわけでございますので、うまくいったところから取り組んでいただいて、モデルになっていただければと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

それから、この地域づくりと密接に関連しているので地域担当者制ですね、これ制定して数年たつんですけども、この機能の程度はどうかということと、今までご質問させていただいた一連の地域づくり、これを考えるときに、この地域担当制度が機能していれば、かなり地域の情報は比較的簡単に収集できますし、それこそ生活の原点の情報ですよ。そういう情報をもとにした制度とか事業をつくっていただければ、非常に効果が必然的にあらわれるというふうに思うんですが、この地域担当者制について、現在の状況を聞かせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

地域担当制につきましては、平成22年度からでありますので、既に5年目の活動に入っているというところであります。

先ほど来、出ております、特に、また地域づくりプランを策定するというような仕事につきましても住民への呼びかけ、働きかけも含めてでありますけども、策定に取りかかった地区は、もちろん策定にかかる作業について、非常に地区に入ってというような取り組みをしてきたものであります。地域づくりプランだけで考えましても、制度が始まってから延べ人数でいきますと、300人ほどの人員になるわけでありまして、もちろん地区のいろんな相談もお受けしたり、あるいはまた地区要望もお受けしたりして、これまで取り組んできております。

確かに地区別に申し上げますと、温度差はあるのは確かだというふうに思っておりますけれども、こういった部分は活動を通しながら、改善できるところを改善してきておりますので、現段階ではこういった制度を、もうしばらくは続けていきたいというふうに思っておりますし、地域づくりプランの取り組みもあわせて、地域支援の中でやっていきたいと思っておりますので、しばらくは現行制度は続けていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ぜひせっかくのこの制度ですね、これを充実させるとすごい力になると思うんで、よろしく願いたいと思います。

それから農業振興に関してですけども、仕事がないというふうなことを聞くことがあるんですが、仕事がないというふうに嘆くのではなく、なければつくるという発想これが大事だということなんです。先月、関川村の猫ちぐら、犬ちぐらというふうなことで、特産品に関する報道があったんですけど、これは1個2万円前後のこのちぐらが人気で、注文しても6年待ちというふうな状況ということですね。本来、地産地消であったものが大化けして、日本中の人気の的になっていると。わらとかすげをつかった従来の特産品ですね。糸魚川市も中山間地に、まだまだ残っておりますので、現在の時代に合った特産品の改良、それから情報の出し方、こうすることで一工夫するだけでも大化けするというふうなことも、これを聞いて感じとるんですが、いかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

糸魚川市の農家の皆さんは、以前からも小規模ながらも加工品をつくって、地域で食べ合ったり、また、あるいは小売りで少し出したりというふうな状況が続いてきておるわけでございます。それらの持つ食の魅力というのは、非常に高いというふうには私は思っております。

といいますのは、昨年、東京麹町の料飲組合の皆さんが糸魚川に訪問いただきまして、糸魚川では集まりごとがあると、お重に地域でつくった料理を回しながら食べるというふうな伝統的なものがありますけども、そういうものを実は皆さんに振る舞いました。非常に喜んでいただいて、帰られた後も、そういう食べ物を分けてくれないかというふうなお話がありました。地域の人たち、そういう料理をつくってくださった皆さんも、そんなに興味を持たれたのかなというふうに思われたと思っております。

それらも含めて、これから国が言う6次化というのは、結構、非常にハードルが高いものもございまして、地域でできる加工品をどんどんと支援していきたいというふうに思っておりますし、昨年の12月に市の単独事業で、高付加価値事業というものを新たな事業として創設をさせていただきました。

上早川では雪室等が1つの事例でございますけども、それに見合って、また市内でもいろんな話をいただいております。我が地区でもやりたいんだけど、相談に乗ってくれないかというふうなお話もいただいておりますので、そういうところでどんどんとご支援申し上げていきたいと思っておりますし、昨年から取り組んでおりますヨモギ、これにつきましても、全国シェアを占める割合が非常に高いというふうに聞いておりますので、耕作放棄地を使いながら、そういうものを栽培していくというふうなことも1つ考えておるところでございまして、やはりこれからの地方創生の中でもそうですけども、地域資源をいかに探して磨くかというところを、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

おっしゃるとおりだと思うんです。まずは地産地消から始めて地域で評価が高まれば、必然的に外へも発展していくということだと思うんで、ぜひ何らかの形で事業として取り上げていただければ、ありがたいなというふうに思います。

それから3番目の市民や産官学による連携、協働と市民大学制度の導入提案でございますが、私は効果の上がらない事業、制度、これは基本的には市民が真に欲しているかどうかということになると、厳しい言い方ですけども、市民が無関心なようなものについては、なかなかこれは連携とか協働、こういうものにもっていったって、なかなかつながってこないと思うんですが、その辺はどういうふうに感じておりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

関心のないものを断念したり、排除したりすることも大事だということは、本当にそのとおりだと思っておりますが、しかし、そうしますと先ほど議員提案のように、何もしないでいいのかという形になるわけでありましたが、やはり何かをすることによって壁が見えたり課題が見えたり、また、それを乗り越えることもできるわけでございますので、新たないい手法が見つからない限りは考えている、想定し、今、取り組んでいるものに対しては、進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

今、ちょっと話が少し食い違っているところもあるかもしれませんが、チーム系魚川は協働の象徴的な組織でありますけども、目的は定住人口の維持と交流人口の拡大ということでありますが、なかなか一般市民には見えない部分もあるということで、平成26年度は、主にどのような活動が展開されているか、まずは伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

チーム系魚川の平成26年度の取り組みということであります。大きくは2つありますけれども、やはりまずは構成団体がチームワークをまずとると、チームワークを高め合うという取り組みと、それから新幹線開通という大きなビッグイベントでもありますので、おみちようプロジェクトについてチーム系魚川としても取り組みをしていこうということで、平成26年度の取り組みをしてき

たところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

この加入に関してでありますけども、糸魚川に関係する全ての団体ということではありますが、この全ての団体に呼びかけているのか、あるいは特別呼びかけないで、あくまでも自主判断で参加をいただいているのか、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

組織のほうは一昨年（2010年）の12月に、設立総会をもってスタートしたところでありますけども、その段階でも市内の各団体に、呼びかけをしてきたところであります。結果、24団体ということでありましたけれども、これはそこで締め切ったわけでもなく、いわゆる随時の加入も可能ですよということで、呼びかけを行ってきたものであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

この議事録によりますと、チーム糸魚川の総会が平成25年度は12月18日に、22団体、37名の出席、平成26年度は4月17日に、20団体、28名の出席で行われて、それぞれ1時間ほどの審議が行われ、事業計画などが決められた。その後、会合、あるいは実際の具体的な活動は、どういう仕組みの中で行われているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

平成26年度の活動の内容になりますけれども、特にやはりチームワークを高める活動としては、情報の共有が非常に大事であるということで、それぞれの構成団体がメールの環境を整えて、メールマガジン等の形で情報の共有を図ったものであります。

おみちようプロジェクトにつきましては、実はきのう行っておりますけれども、新幹線駅アルプス口並びに日本海口に、プランターで駅を飾ろうということで、花植えを行ってきたところであります。また、都市整備課が中心となって、これまで新幹線の実行委員会の組織とタイアップしながら、これまでの活動を行ってきたところであります。

失礼しました。大切なものが1項目抜けておりました。糸魚川応援隊の会員拡大による、いわゆる糸魚川情報の発信というところも忘れておりました。申しわけありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

金子部長、それから斉藤企画財政課長ともどもこの12月の一般質問では、次年度は人口減少対策なんかもテーマにしたかどうかというふうに考えているんだと、事務局レベルで考えているということでしたが、この事務局と、それから幹事会、構成メンバーというのは、どういうふうな形になっているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

チーム系魚川の幹事会につきましては、幹事長は総務部長であります。構成団体のうち、いわゆる当初の発起人でありますけども、発起人が幹事となりまして構成しているものであります。人数は14名であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

あくまでもチーム系魚川の原点というのは、系魚川に関係する全ての団体が、主体的に参加する組織で、具体的目標、活動手法などを参加する団体の人が、みずから考え、実行していきますというふうなことです。徹底というのをよほど意識を高く持っていないと、言いかえれば人づくりまで考えて取り組まないと、これは簡単なようで非常に難しい組織、何かぼやっとしたような組織になりがちになるんですが、特に強制力というのはないわけですから、その点は皆さん、この後、どういうふうに強い組織にしていきたいと考えているのか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり一体感を持つ、そして情報共有するというのが、一番の究極の目標だろうと思っております。やはり系魚川のその目標は何かというと、今、少子高齢化、人口減少というのが、大きな課題であるわけですから、そういったものに向かって、みんなで進んでいくという形が一番理想であるわけでありまして、そのように向かっていきたいと思っております。今言った活動等ももっともっと、やはりどのようにしていけば市民全体に広がっていくかという工夫は、大事だろうと思っております。

そういったところにつながる体制にはなっておるんですが、全然いってないのが実情でございますし、ふるさと応援隊にいたしましても、まだまだ目標数値には達してない、5分の1ぐらいのところにとまっているのも実情でございますので、その辺についてももう一度、先ほどのお話にもあ

りましたように検証しながら、またさらに前へ進めるように取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

チーム系魚川に関しては、もう書いてあるとおり読んで実行なり実施すれば、素晴らしいものになると今でも思っております。

それから次に、総合型の市民大学制度に関して提案をさせていただいておるんですが、現在、この生涯学習の芸術文化活動としての情報登録、これかなり多くありますよね、教室なんかも含めて。それから社会体育も活発なようだと、大変結構なことなんですが、そもそもこの系魚川市の生涯学習の目指すところは何かということです。基本目標といいますか、どうなってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

系魚川市においては合併後、生涯学習推進計画というものを策定しまして、これに沿って生涯学習を進めております。

やはり市民みずから生涯学び続ける、そして学んだことを社会に還元し生かせる生涯学習社会というものを目指して、生涯学習を推進しているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

昨年は社会教育委員会と生涯学習推進委員会、合同の委員会が2回開かれているようですが、ここ最近の内容といいますか、概要を教えてくださいと思うんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

社会教育委員と、それからあと公募委員5名を加えまして、生涯学習推進委員会というものを組織し、合同会議ということで2回審議しております。この中では、それぞれの当該年度の事業の計画の点検、それから2回目では、やってきたことの評価等の検証を主にさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

この生涯学習推進計画を見てみますと、基本構想は平成19年度から平成28年度までの10年間、それから基本計画は前期を平成19年度から平成23年度までの5年間、後期は平成24年度

+

から平成２８年度までとなつとるわけですが、ホームページでは、基本計画は平成２３年度までの前期が載っておるんですけども、平成２４年度以降の後期は、作成してあれば載せておいてほしいんですが、作成してなければ、必要がなかったのかどうかをお聞きをしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

後期につきましては、ホームページのほうに載せてないということでございますので、至急確認をして対応したいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○３番（渡辺重雄君）

前期の基本計画には、地域コミュニティ活動の活性化、協働によるまちづくりの推進という項目があるんですけども、その項目をどういうふうにしてそのようにしようとしているのかという、その先がないんですね。その先が、私がわからないだけであるのかどうか、お聞きしたいと思うんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

済みません。今、質問をちょっと聞きそらしたんですが、要は、学んだことを協働に生かす方向性が見えてこないという趣旨でございましょうか、よろしいでしょうか。

○議長（樋口英一君）

暫時休憩します。

午後１時５９分 休憩

午後２時００分 開議

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

確かに議員のご指摘のように、目指す先には地域コミュニティや地域づくりの中で学んだ人たちが、仲間でもってそれを実践に移していくという方向性は、この計画の中でも示したところでござ

いますが、今までやってきた公民館活動の主は、やはり生涯学び続けるきっかけ、それから仲間をつくるというところで、入り口のところで今現在、まだ取り組んでいるということでございますので、今後の計画の中では、それを地域のコミュニティや地域づくりに生かしていくという視点で、これからは取り組んでいく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

ちょうど、きのうとおとこの土日に、全国学びとまちづくりフォーラムというのがあって、国づくりは人づくりから、生涯学習で地域創生をというテーマで、全国大会が開かれてますね。

それから新潟県、こちらのほうは新年度予算で、個を伸ばす人づくりの推進ということで、未来への投資を積極的に推進するというふうなことを言ってるわけで、国でも県でもこのところ、人づくりを地方創生の基本に据えてきてるということでありましたが、市として先ほど市長も大事だということなんですが、この辺の捉え方、対応、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご承知のとおり、今、糸魚川市はジオパーク活動に取り組んでおるわけでありまして、ジオパークはやはり4年に一度の再審査があるわけでありまして。その中で当然、自然の保護・保全、そして教育、そして地域振興は必要なんですが、さらにそれをやはり市民の皆様方に対しまして、ふるさとに対しての、また自然資源に対して愛着と誇りを持っておるかということも、また問われる部分がございます。まさしく、それが私は人づくりだろうということで考えておるわけでございますので、ジオパーク活動をしながらふるさとを愛し、ふるさとを誇りに持つそういった人間形成が大事だと思ってます。そういったところの目標に向かって、いろんなところの方向性を出しながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

その点では、私もそう思うんですね。今後、生涯学習の中に地域づくり、それから人材育成に関する学ぶ場が必要だというふうに感じております。

今おっしゃるように例えば糸魚川を知り、糸魚川を発信できる人材の育成、それから地域づくりのリーダーを養成する場、こういうものがやっぱり必要になっていくだろうと。それから各種の政策や制度、これを機能させるためにも、その受け皿になっていくんじゃないかなと。それから強力な実行部隊にもなり得るわけですので、今までこのような取り組み、例えばこういうところできょうのようなことをして、それと同じようなことをやってるんだよというものがあれば、さらに教え

ていただきたいと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ジオパーク活動の1つの取り組みということで、今、東京大学の庭師倶楽部主催ということで、ジオパークカレッジというものを主催していただいております。

このカレッジでは系魚川ジオパークを題材にして、ジオパークの基礎や地域の活性化などについて、自然、人文、フィールド体験から学ぶということで、一般講義と特別講義があって、必要に応じて講座を選択することができると。さらに各講義を4単位というふうに位置づけて、32単位取得することで卒業ということで、最後には、論文形式で卒業論文を書いてもらっておりますし、平成24年度からスタートして、ことしが3年目になるわけですが、ことしの受講生まで含めると33名の方がこのカレッジに入って、さらに5名の方については再入学という形で、院生みたいな形での参加ということで、こういう形でちょっと今までの講座とは違った形でやっていただいているという例もございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

地域創生の中で生涯学習の必要性というのは、ここにきてかなり強く出てきておるんですが、今まではどちらかと言うと、生涯学習は自分の知識を高めるといいますか、それを知恵に持っていくというところが、ちょっと弱かったんじゃないかなと思うんですが、これからは地域づくりということになると知識を得るだけではだめで、地域づくりってやっぱり実践、いわゆる学んだ受講生が、次は企画運営に当たれるという立場に立てるような生涯学習のシステムにしてほしいなというふうに、実は思っているわけでありまして、今、お願いをしようとしている市民大学の関係にしまして、フリーの個人が、市民が、自発的に市政に協力できるようなカリキュラムといいますが、1つの仕組みをつくってもらって、市民が一丸となって取り組まなければならないような課題、いわゆる今の人口減少問題にしても、地域振興問題に関しても、それから産官学の問題にしても、そういうカリキュラムの中で個人個人、いわゆる団体じゃなくて個人が参画して学び、そしてリーダーに成長するような仕組みを市民大学制度というような形の中で、総合的なカリキュラムをぜひつくっていただきたいというふうに思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく今、リーダーを養成という形の中での、そういった1つの施策ということで提案いただ

いたと捉えるわけでありまして、そういったところもぜひ研究させていただいて、取り組まさせていただきますと思います。

なかなかそれは非常に難しいところだろうと思っております。非常に難しい部分ではありますが、じゃあ避けて通れるかという、やはり一番大事なところであろうかと思うわけですので、そういった1つの育成できる機関、機能ができるまた制度がつかれるか、ちょっと検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺議員。

○3番（渡辺重雄君）

地方創生の関係について伺ったわけですが、北陸新幹線の開業と同時に、こういう地方創生の取り組みがスタートするわけですので、さまざまな期待を持っておりますし、また、期待が期待どおりに展開されるよう、総合政略と人口ビジョンについては将来に希望の持てる戦略、戦術であることをお願いして、私の質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、渡辺議員の質問が終わりました。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて一般質問をいたしますので、よろしくお願いいたします。

1、文化振興について。

市民会館は改築工事も終わり、間もなくリニューアルオープンを迎えます。兼務だった館長も新しく公募し、糸魚川市の文化振興の拠点施設として、これからの市民会館事業に市民からも期待の声が寄せられることから次の点について伺います。

(1) 市民会館自主事業の選定と市民ニーズの把握について。

(2) 市民会館の管理・運営について。

(3) 青海総合文化会館、能生マリンホールの修繕予定について。

2、クアオルトに見る「健康ウォーキング」について。

クアオルトはドイツ語で、長期滞在型の健康保養地・療養地を意味しております。

ドイツでは温泉や海、森林などを利用した自然療法が広く行われており、その治療や予防に適した場所には、厳格な審査基準の下でクアオルトの認証が与えられるそうです。

日本には、2008年に山形県上山市で、里山や温泉といった地域資源を活用したクアオルトによるまちづくりがスタートしておりますが、今年1月29日には加盟5市による「日本クアオルト協議会」が設立されました。

+